

宮川（勝呂）京子さんインタビュー

【プロフィール】

現在は相模原市に在住。
当時は東野川に住み、第5
小学校卒業後は町田市内の
私立中高に進学。美術が好きで、
高校時代は美術部に所属。現在は
ネイルアーティストをしている。
絵が好き。感受性の豊かな方です。



【平和作文に応募したのは】

担任の先生がこういうのがありますが、誰か応募しませんかと声を掛けたかと思います。それを強く推したのが母です。審査員に宮尾登美子さんがいました。新聞か雑誌に連載中で、母が宮尾登美子さんの大ファン。宮尾登美子さんに読んでいただければなら必ず出しなさいと。それで、母が書けば良いじゃないかと言ったのですが、対象が小・中学生だから、私は出したいけど出せないから、代わりにあなたが書きなさいと。

【表題は】

「ごめんなさい」としたのは、母とけんかしたのがきっかけです。その時、中学受験の真っ最中でした。母と二人三脚で一緒に問題を解いたりして、全面的に協力してくれていました。その時に母とけんかしたのですが、謝れませんでした。それで一日口を利きませんでした。そうしたら母

の方から謝ってきました。同じ立場で目線を合わせて、一緒に力を合わせて頑張っていかななくてはいけない時に寄り添ってあげられなくてごめん、というように。どう考えても私の方が悪かったのですが。その時に泣きながら自然と出たのが、「ごめんなさい」という言葉です。そういうことがあったので、意地を張らないで謝ることができたら上手くいくのにな、と思って、それで、テーマとして「ごめんなさいから始めよう」としました。

【記憶は深く】

この作文はよく覚えています。優秀作となり3000円分の図書券をもらいました。国語の辞書と画材を買いました。

この時の記憶はしっかりとあります。なぜでしょうかね。色々な刺激があった時期です。母は中学3年の時に亡くなりました。母との思い出として残っているのかもしれませんが。

【先生の涙】

「おかあさんの木」の話を作文の冒頭に書いたんですが、段落ごとに音読していたら、一周終えたところで担任の先生が泣いた。その先生のおばあさまのことを思い出したのかなあ？若くてなかなか厳しい先生だったのですが。なぜか泣いたんです。おばあさんがどうのこうのとちょっと聞いていたので、その頃、亡くなったのかもしれないし、思い出したのかもしれませんが。何か重なるものがあったのか、泣いてしまったので、どうしたらとクラスみんなで迷って、最初からもう一度音読し直しました。先生は泣いたときに「おばあさんが…」としか言いませんでした。

【小学生の頃】

狛江市は授業の中に平和を取り入れていて、毎年、体育館で映画を観ていました。二つ映画を見て、一つは娯楽で、一つは平和学習みたい

なものです。2年の時に観たものは映画の中で「おこり地蔵」の人形劇をしていました。すごく怖くて、人形だけど、ところどころ実写も交じってくる。すごく怖くて家に帰って泣いたのを覚えています。家に一人でいて、飛行機の音とかも怖くて。三年生の時も観ました。原爆の話だったと思います。当時カラーフィルムが残っているとは知らなかったから、これは作りものだろう、そうであって欲しいと思っていました。本当に怖かった。立ったまま焦げて灰になった人。心臓が止まりそうでした。トラウマのような、すごく怖かったのは覚えています。

8月15日が近くなってくるとTVも戦争特集をしますが、小学生・中学生ぐらいまでは見られなかったです。怖いというのがあって。怖いからチャンネル変えてと母に言ったら、「現実から目を背けてはいけないよ」って。怖いという先入観を抜いて、現実ってこうなんだ、って少しずつ直視できるようになったのは、わりと大人になってからです。

小学生で観た映像って、ちょっときつかった。トラウマですかね？何とも思っていない子もいます。私は(感受性が強いのか)怖いという感じでした。現実から目を背けないという考えからすれば、必要だったと思うのですが、もう少し段階を踏んで凄惨な写真など理解出来る頃に見るとか、私はショックだった。怖い気持ち先行して、知ることを拒否したい壁を作ってしまった気がする。

現実から目を反らさず、どうしてこのような悲惨な状態になってしまったか、理由まで考えられるようになるには時間が必要でした。小学2年、3年では早かった感じですが。そういう子がいるということでフォローがあれば良かったかな。

小学校の高学年でも映画を観ました。でも、もう覚悟して映画を観ました。

沖縄では大木などに銃弾の跡が残っています。半分焼失したけど、そこから新しい木が生えて来たとか、日常的に爆発物が残っているから、

処理するから避難してとか、普通に告知されている。だいぶ大人になってから沖縄に行ったのに、まだそんなことがあるのかとびっくりしました。4人に一人が亡くなっている激戦の跡…。

【中学の修学旅行】

中三の修学旅行でニュージーランドに行きました。メインは2泊3日のホームステイで、生活してみても国の違いを肌で感じました。街へ買い物に行くと、すみませ〜ん、excuse me から入って、やり取りしたら、みんな Thank you! と、とても気さくに交わし御礼をいう。相手を思いやる言葉が自然と言える雰囲気が良いなあと思いました。柔軟に、色んなやり方、考え方があることを知ることは大切だと思います。

【高校の修学旅行は沖縄】

平和学習で高校2年の時に沖縄に行った。資料館の展示物や凄惨な当時の写真を見て、暑さもあって気分が悪くなり、倒れそうになりました。

平和記念館とひめゆりの塔、ガマも行きましたし、平和の礎も。

ガマの見学では電気消して。それまで修学旅行気分で皆ふざけているじゃないですか。それが誰もしゃべらなくなりましたね。真っ暗な中で何も見えず、ただ垂れている水の音だけが聞こえている…。大変なところで沢山の人が死んでいったんだと。何とも言えない気持ちでした。ひめゆり学徒隊の記念塔に行った時も、同い年かもっと下の人たちが戦って命を落としていったんだと、それがその時で60年前…信じられない。言葉が出なかった。

また、数少ない生き残りの元ひめゆり学徒隊の方に当時のことを伺うこともできました。怖くて怖くてたまらなかった、目の前で御学友が被弾し内蔵が飛び出た。必死でお腹に戻して、消毒しようとしたら「もういいよ、

お腹やられて助かった人、いないでしょ。だから大事な消毒液は使わないで…」と…助けてあげられなかった。

修学旅行の事前学習で映画「月桃の花」(1996 公開。沖縄戦終結50年記念)を観ました。沖縄戦で家族全員を失った主人公が、その辛さゆえ語ろうとしなかった壮絶な体験の記憶を少しずつ回想する物語でした。映画のシーンを何度も思い出しました。

【伯母さんのこと】

伯父や伯母(85、6歳)は戦時中、子どもでした。伯父は満州から引き揚げて来たし、伯母は千葉の五井に疎開していて、学校の帰りにあぜ道で飛行機から撃たれそうになって、命からがら逃げて畑に飛び込んだ。東京の平河町辺りから江戸川の平井に引越、そこも危ないと、祖母と二人で疎開したそうです。家長は家を守るために残らされた。学童疎開のようなひどい生活はしていなかったはずですが、それでも東京者だからいじめられました。戦争中の話は伯母からはよく聞いています。

伯母は終戦時の映像が出てくると、いやだ、いやだ、怖い、見たくないと言っている割には小学2年生で終戦を迎えた話をよくしてくれました。疎開先から夜中に東京方面を見たら、昼間みたいに明るかったとか。今となっては貴重な話ですね。辛かったが、それでも話してくれました。もう死んだんじゃないかと思っていたお父さんと乳飲み子を抱えたお母さんが疎開先に訪ねてきた時には、膝から崩れ落ち、座り込んだと言っていました。食べる物もないから、着物などを売ってお米に換えたり、伯母のひな人形があったが、伯母は泣いてそれだけは売らないで、と言ったそうです。それは今もあります。高島屋製！昭和〇年。

【ロシアのウクライナ侵略などによる悲惨さを見て】

私の中で戦争のことって、モノクロなんですけど、ウクライナで戦争し

ているのはカラーになって、滅茶苦茶に壊れているのってなにも変わってなくて、何十年も前に日本で起きた戦争と何も変わってなくて、スマホ持って逃げ回っている人がいて、あ、現実なんだと。カラーで現実で、昔に起きていたことが今起きていると、それが不思議でたまらなかったです。何度も繰り返すのだなあと。

【多様性を理解し合うことの難しさ】

いろいろな人がいて、その背景には宗教があったりとか、国が違えば考え方も全然違う、大きくなってからは海外の方と話しをしたりとか、知り合いになったりとか、いろいろな人、一緒くたに、なんだろう、平和を望むというのはなかなか難しいのかなとも思う。どう育ってきたかで全然考え方も違う。

どうしたら良いのですかね。

ウクライナの4歳ぐらいの子どもがスマートフォンが欲しくてお金を貯めていたが、そのお金を防弾チョッキを買って下さいと兵士にプレゼントしたニュースを見ました。その発想は自分の4歳の時にあったらどうか？4歳の置かれている状況が全然違う、戦争が当たり前で育っている子がいたりして、不思議に思いました。いつ日本もそうなるのか、分からないですね。今、何をすれば良いのでしょうか？

【声をあげること】

声をあげるのも、怖い！たたかれるのは怖くないですか？誹謗・中傷されたり、どのように言われるか、というのは怖いですね。何か発信するって、勇気のいることですね。

このインタビューも勇気がいりました。恥ずかしいこともありますが。これ見て、私だってわかるから。何言われるかな？